



東海旅客鉄道株式会社 平成18年度期末決算説明会

目次

1.平成18年度決算概要

- ◆決算総括 P 1
- ◆単体決算 (収支の分析) P 2
- ◆連結決算 (セグメント別、タワーズ) P 4

2.今後の施策について

- ◆鉄道事業の生産性向上 P 5
- ◆今後の施策 P 6
- ◆19年度の設備投資 P 7
- ◆19年度の見通し P 8
- ◆7月ダイヤ改正 (N700系デビュー) P 9
- ◆営業 販売施策 P10
- ◆長期債務 P12

1. 平成18年度決算概要

平成18年度決算総括

愛知万博のあった昨年度を上回る好調な決算

営業収益、経常利益、当期純利益のいずれも過去最高を達成

(単位：億円)

	連結		単体	
	実績	対前年増減	実績	対前年増減
営業収益	14,912	236	12,123	126
営業利益	4,024	12	3,808	29
経常利益	2,366	231	2,167	213
当期純利益	1,371	147	1,301	140

長期債務については、470億円を削減 (当初計画比 + 400億円)

(単位：億円)

	連結		単体	
	実績	対前年増減	実績	対前年増減
長期債務残高	34,985	470	34,156	400

単体決算 (1) (収入面)

輸送人キロ、運輸収入とも愛知万博のあった昨年度を上回り、過去最高

- 東海道新幹線 好調な経済状況に加え、ダイヤ改正による山陽直通「のぞみ」の利便性向上、弾力的な列車設定、魅力的な商品提供が寄与
- 在来線 :18年10月のダイヤ改正以降、普通列車については好調に推移
名古屋地区における断面輸送量が対前年比107% (通期で102%)

(単位:億人キロ、億円)		H17 実績(A)	H18 実績(B)	対前年比 (B)/(A)	【参考】前期比(%)	
					4~9月	10~3月
輸送人 キロ	新幹線	437	444	101.6%	99.5%	103.8%
	在来線	91	90	99.4%	97.0%	102.0%
	合計	528	535	101.2%	99.1%	103.5%
運輸 収入	新幹線	10,302	10,430	101.2%	99.2%	103.4%
	在来線	1,056	1,039	98.3%	95.5%	101.4%
	合計	11,361	11,470	101.0%	98.8%	103.2%

* 運輸収入の合計には小荷物運賃 料金を含む

* 端数切捨て

単体決算 (2) (費用面)

営業費用の増加については、人事制度改革に伴う経過措置および耐震補強関連の非資金費用の一括計上が主な要因

営業外損益が改善 (長期債務の平均金利が約0.2%低下)

(単位：億円)

	H 1 7 実績 (A)	H 1 8 実績 (B)	前年増減 (B) - (A)
営業費用	8,158	8,314	156
人件費	1,702	1,752	49
物件費	3,908	4,228	319
諸税	334	321	12
減価償却費	2,212	2,012	200
営業外損益	1,883	1,640	242

連結決算 (セグメント別、タワーズ3社)

流通業 (タカシマヤ) 不動産業 (社宅再開発プロジェクト)が貢献

(単位: 億円)

		H 1 7 実績 (A)	H 1 8 実績 (B)	増減 (B) - (A)
運輸業	営業収益	11,998	12,120	122
	営業利益	3,799	3,775	24
流通業	営業収益	1,907	1,958	51
	営業利益	75	75	0
不動産業	営業収益	582	625	43
	営業利益	124	137	12
その他	営業収益	1,450	1,594	144
	営業利益	39	42	2
連結修正	営業収益	1,261	1,387	125
	営業利益	1	5	3
合計	営業収益	14,676	14,912	236
	営業利益	4,037	4,024	12
【参考】 タワーズ	営業収益	1,340	1,394	53
	営業利益	95	91	4

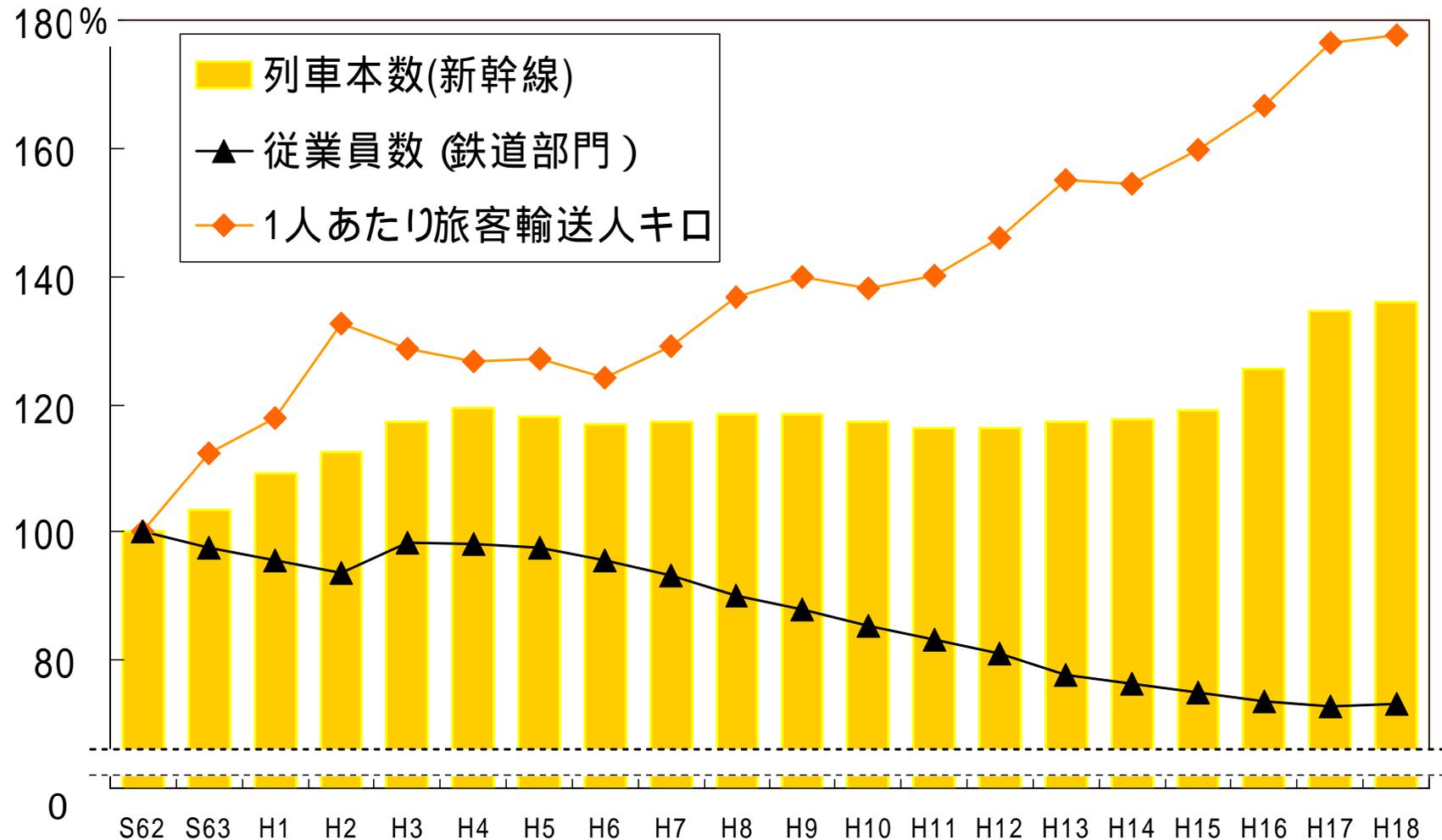
* 「タワーズ」: ジェイアール東海高島屋、ジェイアールセントラルビル、ジェイアール東海ホテルズ (数字は各社の単純合算)

* ジェイアール東海ホテルズにはホテルアソシア豊橋、ホテルアソシア高山リゾートを含む

2. 今後の施策について

鉄道事業の生産性向上

会社発足以降、輸送力は3割、生産性は8割増
社員の熟練度・忠誠心が安全安定輸送の要



今後の施策

羽田空港の拡張を見据え、東海道・山陽新幹線の競争力を強化 長期的な試験研究投資として超電導リニアの技術開発を推進

		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度～
航空の 動向			H19年 関空2期供用開始		H21年 羽田発着枠拡大	10月末に 延期
	輸送・サービス関連		H19～21年度 ・N700系42編成集中投入 全山陽直通「のぞみ」がN700系に			引続き投入 (予定)
当社の 施策	輸送・サービス関連		EX予約 ・山陽延伸 ・IC化			
	輸送・サービス関連		将来に向けた輸送基盤増強 ・電源増強完了(H21年春)・新大阪駅改良(未定)			
	地震対策		H19.9 地震防災システム機能改良		H21年度 鉄筋コンクリート橋脚 耐震補強完了	
	リニア	H18～H28年度 山梨リニア実験線の設備更新・延伸 ・H25年度末 工事完了・実験開始				

19年度 設備投資

安全対策をはじめ、羽田拡張を見据えた競争力強化などを着実に推進
今後数年間、平成19年度(計画)と同等の水準が継続する見込み

主な投資項目	投資額	内容
単体設備投資額	2,880	
安全 安定輸送の確保	1,000	地震対策工事 老朽施設の更新
N700系投入及び新幹線輸送基盤強化	1,000	N700系投入 新幹線電源設備増強及び新大阪駅改良
営業施策の強化	220	EX予約ICサービス導入、 TOICA静岡地区導入
鉄道技術開発の推進と地球環境保全の取り組み	10	
山梨実験線における試験・延伸等の推進	60	山梨リニア実験線の延伸及び設備更新
旅客関連設備の充実	240	主要駅リニューアル バリアフリー設備整備
事業展開の推進等	30	
連結設備投資額	3,290	
子会社	410	JR東海新横浜駅ビル(仮称) 駅構内商業施設リニューアル

19年度の見通し

増収減益を予想、非資金費用の増分は長期債務返済等に有効活用

- 運輸収入は対前年並み、営業費用については単体で275億円の増を予想
 - ・ 減価償却費(+197億円)：競争力強化のためのN700系集中投入開始のほか、制度の変更(+90億円、うち60億円は残存簿価5年均等償却分)
 - ・ 物件費(+91億円)：N700系デビュー等に伴う広告宣伝費の増、設備投資に関連する費用の増
- 営業外損益は借換えによる金利低下、債務減少等により引き続き改善

(億円)	連結		単体	
	予想	対前年増減	予想	対前年増減
営業収益	14,940	27	12,160	36
営業費用	11,180	292	8,590	275
営業利益	3,760	264	3,570	238
営業外損益	1,480	178	1,460	180
経常利益	2,280	86	2,110	57
当期純利益	1,330	41	1,270	31

7月 1日 新幹線ダイヤ改正 = N700系デビュー

7月 1日 N700系の営業運転開始

- N700系を「のぞみ」8本に投入
- 山陽直通N700系「のぞみ」を順次増加
- 早朝、深夜の列車で所要時間を短縮
東京～新大阪は最速2時間25分
- 品川6時始発「のぞみ99号」新設

より一層快適な旅行時間の提供

- 乗り心地向上、IT利用環境の向上、喫煙ルーム設置 (3・7・10・15号車、計6箇所)

高品質の車内空間を創出、
競争力の更なる強化へ

投入計画

全ての山陽直通「のぞみ」にN700系投入

	H19年度	H20年度	H21年度	計
投入編成数	15	16	11	42

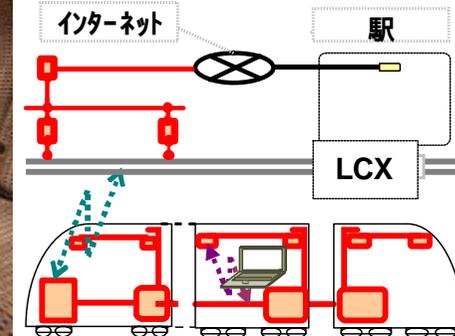
N700系車両



N700系シート



車内でのインターネット接続



喫煙ルーム設置箇所



営業・販売施策の強化(1)

エクスプレス予約のサービス区間拡大に加え、ICサービスの導入により
更なる利便性向上を進める

エクスプレス予約

昨年7月より東海道・山陽新幹線
全駅にサービス拡大、J-WEST
カードでの取扱開始

- ・さらなる利便性向上
- ・会員数、ご利用とも順調に拡大

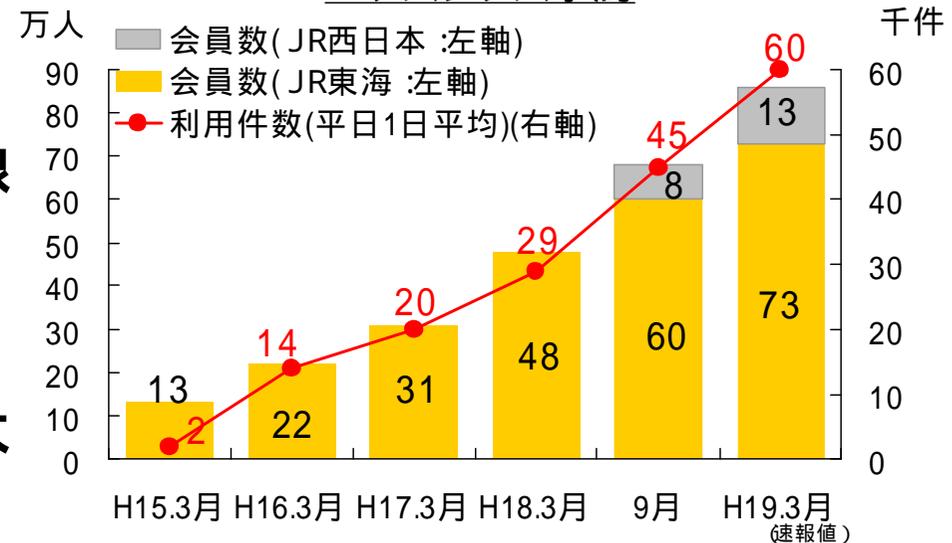
エクスプレス予約ICサービス

平成19年度導入

駅の自動券売機におけるきっぷ
の受け取りが不要
在来線IC乗車券「TOICA」
の導入拡大

新幹線・在来線あわせてのより
スムーズなご利用が可能に

エクスプレス予約



エクスプレス予約
ICサービス用改札機



「TOICA」



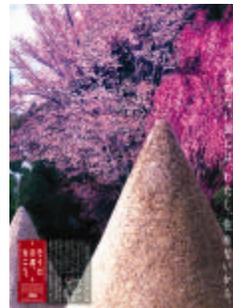
営業・販売施策の強化 (2)

観光キャンペーンの実施および 商品拡充による子会社 旅行エージェント 経由の販路を強化

観光キャンペーン

京都をはじめとして、奈良、伊勢等に向けた観光キャンペーンを積極的に実施

「そうだ 京都、行こう」 「らまし うるわし奈良」



JR東海 「50+」



「ゆったり お値打ち」プラン



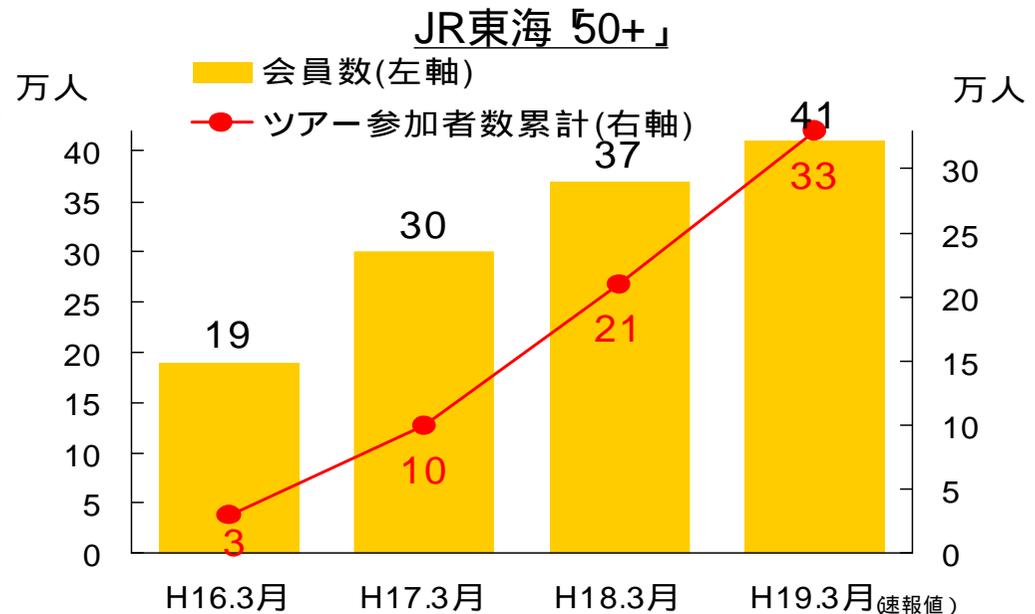
「日帰り 1day 京都」



子会社 (ツアーズ) の販売強化

JR東海 「50+」

その他、余席活用商品のご利用も順調に拡大



長期債務

長期債務の早期縮減は引き続き経営の最重要課題の1つ

	連結		単体	
	予想	対前年増減	予想	対前年増減
長期債務残高	33,915	1,070	33,156	1,000

長期債務(単体)の推移

